

編集後記

2020年1月後半から我が国でも感染者が出現したCOVID-19が、止まることなく蔓延し、5月も緊急事態宣言で社会活動が制限されている。感染症を受け入れることで病院内の区域分け、隔離に伴う大幅な人材の確保、そして枯渇、病院機能としての救急及び通常診療の維持が難しくなってきている。脳神経内科医も専門医としての診療だけでなく、内科医としてCOVID-19への診療に従事している医師も多い。例年この時期には、春の学会の学術集会が終了し、5月下旬の神経学会学術集会の準備が開始される時期であるのに、2020年初頭には全く思いもしなかった状況となっている。

社会的には一般企業では在宅勤務による勤務体制の見直し、集会の禁止による飲食店などの閉鎖に伴う雇用や経済的な困窮、そして病院では、感染対策はもちろん、定期通院や検査・手術の必要性と時期の見直し、オンライン診療の導入、重症患者の治療体制の見直し、など、医療を含めた社会全体の大きな意識の変革が起こっている。2020年の約80年前は第二次世界大戦、さらにその約80年前は明治維新、といずれもそれまでの社会的な常識や考え方が大きく変わった時期があったが、2020年もCOVID-19の世界的な流行による歴史的に大きな変換点として残る年にな

りそうである。

学会の中止や病院業務の見直しと縮小によって会議やカンファレンスも減り、外出も制限されてのStay homeで思わぬ時間ができたせいか、このところ各種雑誌からの査読依頼が増えている。これまで学会等で発表してきたものでいつかまとめたいと思っていた内容や、延期中止されてしまった学会で発表する予定で勉強してまとめてきたものを論文として完成させ、投稿しているものと思われる。COVID-19と比較されることの多いベストの17世紀のロンドンでの流行時には、大学は閉鎖され、アイザック・ニュートンも田舎に疎開となり、その疎開暮らしの中で、微分積分や万有引力などの画期的な着想を得たそうである。院内ではそんな優雅な時間は得られないであろうが、週末のどこにも出かけられなくなった時間にゆっくりと着想を練るにはいい機会かもしれない。COVID-19が収束した時に医療のあり方は大きく変わってくると思うが、臨床から得られるものが常に医療の進歩を後押しし続けることは間違いない。臨床から得られた新たな知見をまとめていただき、投稿していただきたいものである。

(星野 晴彦)

〈編集委員〉

編集委員長	園生 雅弘	編集副委員長	高尾 昌樹
編集委員	荒木 信夫 飯塚 高浩	池田 昭夫 亀井 聰 古賀 政利	
	鈴木 匠子 坪井 義夫	西野 一三 星野 晴彦	
編集委員(幹事兼任)	小野寺 理 新野 正明	三澤 園子	

「臨床神経学」 第60巻 第6号 2020年6月1日発行

編集者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル	一般社団法人日本神経学会
発行者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル	戸田 達史
印刷所	〔郵便番号 602-8048〕 京都市上京区下立売通小川東入	中西印刷株式会社

発行所 〔郵便番号 113-0034〕 東京都文京区湯島二丁目 31番 21号 一丸ビル
日本神経学会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス : <http://www.neurology-jp.org/>